

牧師所感：

異国で宣教する牧師、宣教師

私、申 鉉錫 ― 牧師、宣教師の働きの区分 ― は 牧師であって 宣教師ではない。と申しますのは 次の理由によってである。筆者は 1966 年 4 月 16 日に 正式の入学制になる為に 韓国から 日本に 日本の外務省から入国 visa が与えられて 入国して来た。

その時は まだ 日本と韓国の国交が開かれていなかったが、奇蹟的に visa が降りて 入国出来た。以来、私は 国立音楽大学から、神の思召しがあつて、日本で牧師になった。その後、在日大韓基督教会で 牧師として 今日まで働いている。人、曰く 筆者を 宣教師と呼ぶが、厳密に言えば 牧会者である。

私は 最初 勉学の目的で 来日して牧師になったので、そう呼べるが そうではない。

では 宣教師という牧師の定義は 私見によれば、韓国なら韓国（本国）から 他国へ専ら 原住民に宣教する目的で 派遣された牧師を 宣教師と定義する（呼ぶ）。

ところが 牧師と呼ぼうが 宣教師と呼ぼうが、宣教が 目的であるから 問題があつた とは言えない。牧師は 自分が仕える教会員の生活全般（冠婚葬祭 等）に対して 目を配らなければならない。

然らば 宣教師が伝道して会員を得て 牧会することになれば、その宣教師は 牧会者であると認められる。

ところで 牧師（牧会者も）・宣教師も 過労のあまり、健康管理がおろそかである。つまり 心労（申し訳ないが）がたたつて重病になり、病院に入院を余儀なくすることになる。

然るに 長年 教会を牧会して来た牧師の制度に定年が導入され 殆どの教会は 70 年制が通常になる。定年になった牧師は 隠退牧師会が設立され、東京を中心に 関東地方に定住する殆どの牧師が 加入している。

前にも書いたが、引退後の牧師が病気を患うと 殆どの現役の牧師 及び 宣教師達が 一斉に心を込めて神様に祈ってくれる。そのお祈りの御陰で、病気が治り、余生を強く生きておられる。数日前には 東京に住んでおられた牧師が 末期がんにかかれ、その知らせを受けた牧師・宣教師が 一斉に力を尽くして祈っている今日である。

ところが 2,3 日前 9 月 4 日に 千葉県 四街道病院に 定期検査の為、脳外科に寄つたところ、お医者様が診察の為 MRI を撮るようと言われた。MRI の結果は 脳梗塞が 進展しており、すぐ入院して 治療するように言われ、即刻 入院となった。

入院は 9 月 4 日 水曜日であつた。何日か経てば 日曜日 主の日である。主の日に 礼拝を司り、説教しなければならない。すぐ 隠牧会に 電話で知らせた。

その知らせを受けた 同僚の牧師・長老、その他の教会員から 電話が殺到、何と心強いことか！！これが キリスト者の友情である。

Kim 牧師よ 頑張ってください。僕も頑張るから...

死を恐れている訳ではない。神様に召される時には 喜んで召されたい。

後輩の諸牧師・長老、信徒の励ましの祈り、感謝です。

皆さまに 幸せあれと祈る！！